

マイスター・ハイスクールだより

～文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」～

北海道教育庁学校教育局高校教育課

[第1号]

R3.11.24発行

令和3年度 第1回運営委員会を開催

8月17日(火)、オンラインによる第1回運営委員会を開催しました。

開会に当たり、管理機関を代表して北海道教育委員会の倉本博史教育長から「今年度から令和5年度までの3年間、静内農業高校の校長先生をはじめ、地元の自治体や地域の産業界の皆様からのお力添えをいただきながら、本校と地域の農業を中心とした本道産業の発展に向けて、本事業を推進することとしていることから、専門的見地から様々な指導・助言をいただきたい。」と挨拶がありました。

委員会においては、本事業の概要、CEOや産業実務家教員の役割、静内農業高校における取組の説明(下記参照)などが行われ、最後に委員の皆様からマイスター・ハイスクールビジョンの承認をいただきました。



<事業の概要>

研究指定校	北海道静内農業高等学校
事業名	地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～
事業の目標	軽種馬、野菜生産や食品加工など、特色ある日高の農産業の実践をとおして、地域産業の課題解決の一助を担うとともに、フロンティアスピリッツのもとに地域と産業の持続的発展をけん引するイノベーターとしてのマイスター育成
高校時代に育成すべき人材像	学校教育目標を踏まえ、地域と一体化した3年間の学びで目指す5つの資質・能力 「思考力」「判断力」「表現力」「実践力」「創造力」
マイスター・ハイスクールビジョン -専門高校における人材育成計画の概要-	1 高度熟練技能者による指導や企業等と連携した商品開発や軽種馬生産など、地域や産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の推進及び学校設定科目の設定 2 プロジェクト学習を中核とした教科等横断的な地域課題探究型の学習活動の推進 3 デュアルシステムを活用した地域の企業等と連携したキャリア教育の充実 4 地域や小・中学校と連携した教育活動など、異年齢集団による活動の推進 5 オンライン授業や実験施設を利用した高度な実験・実習など大学等との連携・協働 6 農業経営のグローバル化等に対応するためのeコマースの活用や英語教育の充実

マイスター・ハイスクールCEO

北海道農政生産振興局・技術支援担当局長

「マイスター・ハイスクールビジョン」を実行する中心人物として、職業人材育成システムを構築し、指定校における取組を統括する役割を担います。

産業実務家教員

日本軽種馬協会(JBBA)静内種馬場・獣医師

本校における実験・実習等において、産業界の最先端の技術・知識等の指導を主に担当するとともに、産業界と一体となった教育課程の企画に関して統括する役割を担います。

運営委員会(13名)

- 【委員長】 新ひだか町・町長
- 【副委員長】 JAしずない・副組合長
- 【委員】 北海道教育委員会・教育長
北海道日高振興局・局長
北海道経済連合会・専務理事
新ひだか町商工会・会長
北海道農政生産振興局技術普及課
・首席普及指導員
日本軽種馬協会静内種馬場・場長
国分北海道株式会社・代表取締役社長
酪農学園大学・教授
株式会社ハッピーアロー・代表取締役
北海道静内農業高等学校・校長
北海道静内農業高等学校・PTA副会長

事業推進委員会(22名)

- 【委員長】 マイスター・ハイスクールCEO
- 【委員】 産業実務家教員
北海道教育庁学校教育局高校教育課・指導主事
北海道教育庁日高教育局高等学校教育指導班・主査
新ひだか町総務部まちづくり推進課・課長
日高農業改良普及センター・所長
北海道静内保健所・所長
北海道経済連合会・食カカグループ総括長
日本中央競馬会日高育成牧場・場長
日高軽種馬農業協同組合・業務部長
国分北海道株式会社・顧問
新ひだか町商工会・事務局長
北海道静内農業高等学校
(校長、教頭、事務長、農場長(食品科学科主任)、
教務部長、進路指導部長、生産科学科主任、
普通科主任、英語科主任、情報担当)

<達成目標>

< 定量的目標 >	
地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒の割合	在籍者の80%以上
地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上
将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒の割合	在籍者の80%以上
様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80%以上
自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80%以上
ITやICT、IoTの役割を理解し、活用することができる生徒の割合	在籍者の80%以上
卒業後、即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50%以上
卒業後、就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40%以上
英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	卒業生の30%以上
在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50%以上
将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	3人以上(3年間累計)

< 定性的目標 >

【自己認識】	自分を客観視する力、自分に対する自信ややり抜く力
【意欲】	物事に対して意欲的に取り組める力
【忍耐力】	根気強く物事にあたる力
【自制心】	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力
【メタ認知 ストラテジー】	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力
【社会性】	リーダーシップがとれ、他者とのコミュニケーションがとれる力
【回復力と対処能力】	問題が起こった時にすぐに立ち直れる、またそれに対応できる力
【創造性】	ものを作ったり、工夫したりする力



サマーセール(セリ)で引き馬をする生徒



町長を囲んで町の未来について意見交換

< 3カ年の事業計画 >

< 1年目 > 発見

- 1 生徒が主体的に町の現状と将来像、地域産業の現状を把握して考察
- 2 新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に係る講話
- 3 職業人材による講話等を踏まえ、生徒が地域の将来について考察
- 4 教育課程の刷新の方向性を検討・改善(次年度、学校設定科目を設定)
- 5 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 6 各種検定試験(資格)に対する理解を深め、受験に挑戦する心身の醸成及び受験
- 7 キャリア・パスポートの活用(指定期間において継続して活用)

< 2年目 > 挑戦

- 1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
- 2 研修(ICT、IoT)を活用している農業施設及び農業機械を実地視察、研修
- 3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 4 馬の仕事に必要な技術・資質が分かる達成表『ホースマン・レベルアップ・チャート』の作成
- 5 「うまキッズ探検隊(仮称)」を企画し、子どもに馬の魅力を伝えるイベントを実施
- 6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売の基礎研究
- 7 遠隔システムを活用した海外の学校との交流

< 3年目 > 進化

- 1 専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義及び実践的研修
- 2 研修(ICT、IoT)を活用している農業施設、農業機械を実地視察、研修
- 3 施設見学及び実習など施設・設備の共同利用(産業界、農業関連施設、大学等)
- 4 特別支援学校と連携した「乗馬交流(馬セラピー)」の実証研究
- 5 デュアル派遣実習及び農業インターンシップの実施
- 6 産業界等と連携した食品に関する新たな商品開発・販売、収益活用システム構築
- 7 海外の学校への訪問交流事業

< 運営委員からの指導・助言 >

- 一つの道を極める必要もあると思うが、色々な変革にチャレンジするという意味では、一見異なっているものを結び付けられる柔軟な発想が重要だと思っています。
- 高校生の年代に実践的な知識や技術を知ること、イノベーター的な感覚を養うことができ、地域の農業に大きな還元ができるチャンスだと思います。
- 地域内でいかに魅力のある雇用の場をつくっていけるかが、非常に大事だと思っています。
- 本事業に協力することで、地元を愛していただける子どもたちが残っていたのであれば、就職活動においても会員に宣伝しやすくなると思います。
- 1年目の発見、知ることができなければ、次の挑戦、進化もありえないと思います。ですから、1年目は非常に重要な位置付けだと思っています。
- 本当に大事なのは、事業後も持続的に教育が続けられるよう、体制を築き上げることだと思います。
- 実際は採用する立場としての求める人材と輩出していく人材とのギャップを少し埋めていくような観点から、アドバイスをしていきたいと思っています。
- 社会で活躍できるような教育をするための高校と大学の連携の在り方や、地域を巻き込んだ連携の形を協議していく必要があると考えています。
- キャリア教育の観点から、就職がゴールではなく、この高校生活を通じて、どのような資質を育てていくのかサポートしていくのが大事だと思いました。
- 多くの取組にプロの方々、講師として子どもたちに携わっていただけのことに、感謝しています。
- この町のことを、いつまでも想ってくれる生徒を育てたい。町を離れても、自分の出身地に愛情をもちながら、人生を育んで欲しいという気持ちがあります。